

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	跡見学園女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アトミガクエンジョンダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	基礎ゼミナール
	学部・研究科等名	観光コミュニティ学部
	担当教職員名・役職	小川 功・観光コミュニティ学部長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	168
	受入企業等数	66
	受入企業等名	JALスカイエアポート沖縄,JALスカイスターフライヤー,羽田タートルサービス,板橋区,所沢市,新座市,川越市,伊那市,山形県西川町,西川町大井沢区,築上町,会津若松市,南城市観光協会,もてぎブラザ,峰の原高原観光協会,信州いいやま観光局,けやきコミュニティ協議会,小倉ベイホテル第一,ホテルパークサイド,ホテルグランドフレッサ赤坂,相鉄フレッサイン御茶ノ水神保町,両国ビューホテル,リーガロイヤルホテル東京,ホテル清風園,ユインチホテル南城,苗場プリンスホテル,軽井沢プリンスホテル他10ホテル,吉池旅館,月山志津温泉旅館組合,円かの社,一の湯,南都,ギャップジャパン,ザファーム,B&A門司港,DevilCraft,西武ライオンズ,サービス・ツーリズム産業労働情報開発センター,オフィス・マッチング・モウル,NPO日本エコツーリズム協会,NPO風の原っぱ,NPO地域交流センター,ワールドリー・デザイン,政策支援,地域活性プランニング,さとゆめ,プランニングネットワーク,JTBビジネストラベルソリューションズ,JTBコーポレートセールス,JTBコーポレートセールス,パーパスジャパン,近畿日本ツーリスト,Philippine Rural Reconstruction Movement,フィリピン留学普及協会など
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	旅行会社における営業体験、ホテル・旅館でのフロントや厨房業務など観光に関連した就業体験がある一方、自治体やNPOで地域おこし、コミュニティの将来像づくりのために現地調査を実施し、調査結果をプレゼンテーションする、という形もある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,4.当該インターンシップは、必修科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年次春学期の必修科目「基礎ゼミナール」の一環としてインターンシップ(「学外実習」)を位置付けており、夏季休業期間中、6日から10日間のインターンシップへの参加、修了が単位取得の条件となっている。実務能力の向上、これまでの学びの再確認や整理、今後必要な学びの内容及び将来設計や職業適性を考える機会としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用手法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	基礎ゼミナールの授業時間に、インターンシップの目的目標等を共有化するための事前調査やディスカッションを行うとともに、受入先に関する企業研究、個々の学生に対する目標設定の指導などを行っている。また、受入先に合わせたビジネスマナー講座を必要に応じて実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	参加学生には作業内容や反省点を記した日報を受入先担当者に毎日提出すること、インターンシップ終了後には事後レポートを提出することを義務付けている。また、各ゼミごとに事後発表会等を行い教員によるフィードバック、学生間での成果や反省点の共有化を図っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中の教員による受入先訪問は義務付けられてはいないが、インターンシップ期間がおおむね1週間を超える場合は、期間中教員が受入先に赴くケースが過半である。また、インターンシップ開始時や、事前学習として学生とともに受入先に赴くケースもある。さらには、就業体験とともに現地調査を兼ねる場合は教員等が引率するケースもある。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	受入先団体の担当者に、個々の参加者に対する講評を依頼し記入いただいている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	日々、受入先に提出する日報へ、担当者にコメント記入を依頼するとともに、インターンシップ終了時には、8項目3段階で学生の取り組み姿勢や業務遂行能力を評価してもらい、学生へのフィードバックとしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間6日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間8日間以上(うちインターンシップ実施期間6日以上)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	6日間以上を単位取得の条件としているが、受入先の事情や、企画立案を含むインターンシップの場合は事前調査を含め6日間以上で可としている。最長は1カ月程度である。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前に担当教員が受入団体を訪問し、インターンシップの趣旨等を説明したうえで実施計画の作成を依頼し、フィードバックを繰り返して実習内容を決めている。インターンシップの終了後には受入団体に対する提案を、受入団体職員に対して行い、インターンシップの成果を還元するよう努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://unipa-web.atomi.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://unipa-web.atomi.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a>
問い合わせ先	大学等名	跡見学園女子大学
	担当部署名	事務局庶務課
	担当者役職名	
	担当者氏名	永吉泰行
	電話番号	048-478-3333
	メールアドレス	d-shomu@atomi.ac.jp